

佐々木達行（ささきたつゆき） 前千葉大学教育学部教授  
 1947年生まれ。横浜国立大学教育学部卒。小学校学習指導要領解説図  
 画工作編成協力者会議委員をはじめ、文部科学省各種協力者委員会委  
 員を歴任。長年にわたり図画工作教科書編集に携わりながら、多くの  
 著作を執筆。現在の造形教育の中心的役割を担っているだけでなく、  
 教科を超えた学校教育全体の幅広い視野での教育論を展開する。

# 小さな美術館



「ぐるぐるぐるーり」(1年) 大阪府大阪市



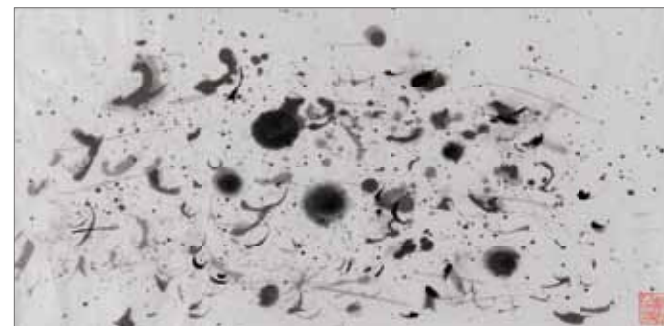
「ミックスBOX」(6年) 埼玉県川口市



「木々を見つめて」(4年) 福岡県筑紫野市



「空とぶチューリップの家」(3年) 北海道札幌市



「ふしぎなもよう」(6年) 岡山県岡山市

[小学校図画工作科教授用資料] AD



**開隆堂出版株式会社** <http://www.kairyudo.co.jp>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1  
 TEL. [代表] 03-5684-6111 [編集] 03-5684-6117 [営業] 03-5684-6121, FAX 03-5684-6122  
 北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西 6-11 札幌北辰ビル 8F TEL.011-231-0403  
 東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町 1-11-1 萩野町 Mビル 2F TEL.022-782-8511  
 名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町 14-4 星が丘プラザビル 6階 TEL.052-789-1741  
 大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町 2-10-16 TEL.06-6531-5782  
 九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港 2-1-5 FYCビル 3階 TEL.092-733-0174

## 開隆堂が目指すもの

◆確かな力を培う図画工作◆



### ●小学校図画工作の教科目標（学習指導要領より）●

表現及び鑑賞の活動を通して、

感性を働かせながら、作りだす喜びを味わうようにするとともに、

造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

**開隆堂**





佐々木達行 前千葉大学教育学部教授

# 図画工作科教育のあり方と求められる教科書

## 図画工作科の教育と「生きる力」

学習指導要領では「生きる力」の育成を次のような3つの視点から課題を捉えています。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の育成
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

この「生きる力」を育成する3つの課題を受け、図画工作科の授業では、具体的に子どもにどのような「授業目標」や「表現・鑑賞内容」を設定し、それらをどのような「授業デザイン（授業づくり）」として与えたらよいか、新たな課題が投げかけられているのです。

そうした課題を解決するためには、造形教育の視点から「授業目標」や「表現・鑑賞内容」を整理、整頓したり、「授業デザインの方法」を示したりする

など、新たな教育のあり方を思考していくことが必要になります。

## 図画工作科の教科書に求められるもの

### ①論理的にわかりやすく整理、整頓された内容と紙面構成

新たな教育のあり方や課題を達成していくことは、日々の具体的な授業を充実させていくことに他なりません。授業で使われる教科書は、新たな課題に対応し、教師が使いやすく、また子どもにわかりやすい内容や紙面でなければなりません。

つまり、教師は、その授業の活動をとおして、子どもに何を教え、育てるのか、またそれはどのような活動をどのように促すのか。子どもは、自らどのような活動をどのように行うのか、そこで何を学ぶことができるのかなどが示されているということです。

それは造形教育学の視点から具体的な「授業目標」や「表現・鑑賞内容」、「授業デザインの方法」や「指導方法」等が論理的にわかりやすく編集されていることと言い換えることができます。

### ②「授業目標」を達成するために示される「授業デザイン（授業づくり）の方法」

新たに掲げた「生きる力」を育成するためには、「授業デザイン（授業づくり）の方法」が重要になります。

知識や技術は、教師が子どもの手を取ってでも教えることができますが、思考力や判断力、主体性等は、子どもの中に培う（育成）ものです。このような教えることができない「授業目標」に対しては、問題解決・課題追究型の「授業デザインの方法」が有効になります。こうした「授業デザインの方法」を示しておくことが使いやすく、わかりやすい教科書ということになります。

### ③整理された多様な情報、資料

教科書のもう一つの役割に、整理された多様な情報を提供する資料性があります。

子どもの自主的、主体的な態度を育成しようとするときは、子どもが自らの造形表現活動の方向性や可能性を見つけたり、選んだり、決めたりするなど、試行錯誤を促すような環境が必要になります。つまり、「表現・鑑賞内容」等に関して整理、整頓された使いやすい情報、資料が充実していることが求められるのです。

教科書は単なる作品のカタログではなく、造形教育の理論に基づいた図画工作科の授業のあらゆる情報、資料を提供する役割を担っていなければならないのです。

## 発想・構想の力を培い、創造的な技能を働かせます。

形や色、方法や材料について知り、試したり見つけたりすることを通して、考える・くふうする・見る・かく・つくる力が育ちます。



どっちの色がきれいかな。



どんな形になるかな。



トンボがかくれていたよ。

## 自分や友達、社会とのかかわりの中で、創造的な表現および鑑賞の力が培われます。

心を開き、材料や自分自身、友達とかかわるよさを知ること、コミュニケーションの力が培われます。



作品を鑑賞して、見つけたことを話してみよう。



学校でつくったカードを家族にプレゼント。



つくったおもちゃを使ってみんなでのしんだよ。